

②自然の恵みを慈しむ生物多様性・景観

住民、NPO、企業等の様々な主体の取組により、コウノトリをはじめ野生動物との共生が進むとともに、都市や農村の景観が守られ、うるおいのある快適な生活環境が形成されている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 20代後半の男性。但馬の多自然地域に父、母、妻と暮らす。小学校の教員として勤務している。
- 集落の豊かな自然環境を守っていくことは大切であり、子どもたちが自分に直接関わることとして自然保護を実感できるよう、授業を工夫している。

<野生動物との共生>

- この地域は、週末には観光客が来るほど美しい景観があるとともに、様々な動植物と共生できている。お馴染みとなったコウノトリのほか、かつての絶滅危惧種のクマタカやイヌワシも空を飛び交っている。こうした環境で収穫されるコウノトリ米は海外でも人気だ。
- 授業で子どもたちと田んぼの生き物観察をした時には、ドジョウやカエルをたくさん見つけて大喜びの子供たちに、これがコウノトリの餌になること、人間の食べ物も他の生き物の命をいただいているものであることを教えた。
- 30年ほど前に大問題になっていたのが、シカやイノシシの獣害で、里山の樹木や農産物が食い荒らされて大変だったそうだ。今は、狩猟後継者の育成やAI（人工知能）を活用した狩猟方法のおかげで適切な頭数管理ができるようになっていて、鹿肉や猪肉を使ったジビエ料理が地域の名物になっている。

<多自然地域の環境保全活動>

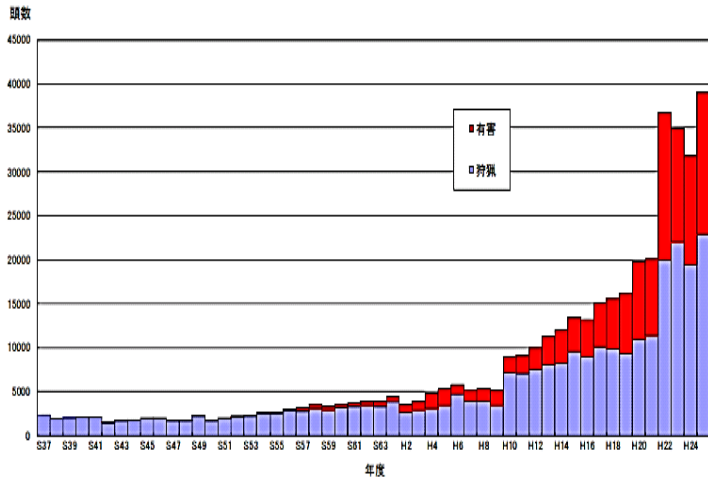
- 授業では、子どもたちと植樹などの森林保護活動をすることもある。地元のNPOの人たちや都市部の企業の社員の人たちと一緒に活動していて、人数も多く、作業がはかどると森林組合の人も喜んでくれる。都市部の企業は、このような活動を県内各地で行っているようで、先月は海岸でのゴミ拾いをしたらしい。最近では、自分たちが活動している森や海岸に対して、社員の人たちの思い入れがますます強くなっているそうだ。
- 次回は、川の美化活動をする予定だ。子どもたちとの活動を通じ、自然環境を守る意識がさらに高くなった私に影響を受けて、家族も活動に加わっている。

<都市景観の確保>

- 今日は、大学の同窓会で、県内の〇〇市を訪れた。〇〇市は、20年以上前から都市景観の整備に努めており、建物の高さや屋外広告の規制、都市緑化に力を入れてきた。長年取り組んできただけあって、とても洗練された街並みだ。
- 私が生まれたのは、人口の減少が本格化した頃だけれど、人が減った分、こうした都市部の街中に空き空間が増え、そこが樹木や芝生といった緑いっぱい場所に整備されていて、心が安らぐ。人が減るのも悪いことばかりではないんじゃないかな。

現状や課題

【鹿の捕獲数推移（県）】



(出典：兵庫県「シカ管理計画」)

【コウノトリ野生復帰の取組】



コウノトリの放鳥の様子

2005年から県が実施してきた野生復帰事業により、但馬地域を中心に繁殖個体群が復活しつつある。

(出典：豊岡市 HP)

見えてきた兆し

【緑化の取組】

○住民団体による法面の植樹



○工場敷地の道路沿いの緑化



(出典：兵庫県「都市緑化推進検討調査報告書」)

【地域住民による清掃美化活動】



ひょうご アドプト

Hyogo Adopt

「ひょうごアドプト」は、兵庫県が管理する道路・河川・海岸などの公共物において、地域住民がボランティアで清掃美化活動を行い、快適な生活環境を創出していく取組である。

【民間企業による景観保全の取組】

○企業の森づくり



植栽の様子

(出典：(公社)兵庫県緑化推進協会 HP)

【専門家等の意見】

○人口減少により一人当たりの公園面積は増える。人口が減ることでゆたかさの形が変化し、ある意味ではゆたかになるのかもしれない。

○ダウンタウンの再生のため、まちの景観の再構築に向けて動くのは、地域づくり活動のきっかけとなるので、単なる景観整備の枠を超えた良い効果が生まれる。